

「マルタの冒険～ステキな園の一日～」

#1 「サクラノボル」





1、春の穏やかな陽射しが、

ニンジン保育園のお庭を照らしています。

満開になつた大きなサクラの木からは、

桃色の花びらがヒラヒラと舞い降りています。

お庭では、マルタたちの明るく元気な声が  
聞こえています。

モン吉は、大きなサクラの木を

見上げています。

木登りがしたいようです。

お兄ちゃん達が楽しそうに木登りしていたのを見たことがあります。

けれども、小さなモン吉にはまだ登ることが  
できません。

サクラを見上げて いるだけでした。



2、夏がきました。

ニンジン保育園の草や木は、  
青々として元氣いっぱいです。

モン吉は、大きなサクラの木には  
まだ登れないで、  
まずは小さな木から  
登つてみるとことにしました。



3、腕を大きく伸ばして木にしがみついたり、足をひっかけたりと、一生懸命です。そんなモン吉のようすを見ていたマルタたちは、いつの間にか一緒に木登りを楽しむようになりました。



4、ある日、モン吉がマルタたちと小さな木で遊んでいるうちに、なんとか小さな木になら登れるようになつていきました。

マルタたちから、「おめでとう」の拍手がありました。嬉しくなつたモン吉は、少しづつ登る木を大きくしていきました。

5、秋になりました。

木々の葉が、赤や黄に色を染めています。



モン吉は、春に見上げていた

大きなサクラの木の下にいました。

その周りにはマルタたちが木を囲んで  
モン吉を見つめています。

とうとう大きなサクラの木に  
挑戦する日がきたのです。



6、マルタはモン吉に声をかけました。

「モン吉がんばれー！」

モン吉は照れくさそうにうなずくと、一度、深呼吸をしました。



7、木に手を伸ばしてギュッとつかまり、

足をひっかけ、一歩一歩登ってきました。

登れるかもしれない。

モン吉は、春から練習してきたことを思い出し、

「できるはず、きっとできる」

そう思いながら登りました。



8、マルタたちの応援する声が、  
木を登っていく力になつて、  
モン吉は気がつくとサクラの木のてっぺんに  
たどり着いていました。

マルタたちは大喜びで見上げています。



9、そんなモン吉は、

頂上から見える景色を眺めながら  
驚いていました。

大きいと思っていた桜の木よりも、  
はるかに大きな木が遠くの山々に  
たくさんあつたからです。。



10、サクラの木から降りたモン吉を、  
マルタたちが笑顔で迎えてくれました。  
モン吉は、頭をかきながら照れくさそうに  
笑うのでした。

「やればできる！」

モン吉は、そう思つたのでした。